



「おなら」はどうして音がするの

音は物のふるえが空気を伝わり耳にとどいたもの

「おなら」の音は、大腸の中にたまったガスが体の外へ出るときに、おしりの肛門をふるわせるために出るものです。

物をたたいたり、はじいたり、こすったり、ひっかいたり、ふいたりすると、音が出ることは知っていますね。

何かをたたいたりすると、その物がかすかにふるえ、そのふるえが波のように広がり、空気を伝わって、わたしたちの耳にとどきます。それが音です。

口をすぼめて、息を強く出すと音がしますね。このとき、口びるは細かくふるえています。おならの音も、このようにして出ているのです。

「おなら」は大腸の中にたまったガス

大腸の中には、たいていいつも150~200ミリリットル(コップ1ぱいくらい)のガスがつまっていて、そのガスが、大腸の中のものが前に進むのを、助けています。

このガスは、大腸の中の食べ物のかすから出ています。

大腸の中には、大腸菌という細菌(目では見ることができない小さな生き物)がたくさんいて、野菜などを発酵させ、細かくして消化しやすくしていますが、そのときガスが出ます。そのガスのうち85パーセントは吸収され、残りがおならになって出るので。

(監修・保志 宏)

